

新型コロナウイルス感染症対策のため、当分の間『岐大通』の配布方法はこれまでと異なります。ご理解のほど、よろしくお願いします。

2020 J3 ■順位表 ■第 31 節

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績（岐阜から見て）

1	秋田	71p	+40	54	14	H●	A●
2	長野	55p	+20	44	24	H●	
3	相模原	54p	+6	39	33	A●	H△
4	岐阜	52p	+11	48	37	---	---
5	富山	50p	+13	49	36	A○	H△
6	鳥取	50p	+8	43	35	A○	H●
7	今治	49p	+9	33	24	H△	A○
8	鹿児島	49p	+6	45	39	A○	H●
9	熊本	48p	+6	51	45	H○	A○
10	藤枝	43p	+1	44	43	A●	H○
11	福島	39p	-6	43	49	A○	H●
12	岩手	36p	-16	29	45	H△	A○
13	沼津	35p	-5	31	36	A△	H○
14	G大阪23	32p	-10	37	47	H○	
15	八戸	30p	-13	38	51	A○	
16	讃岐	27p	-17	30	47	H△	A○
17	C大阪23	24p	-25	27	52	A●	H○
18	YS横浜	24p	-28	35	63	H○	A△

※勝点、得失点差が同じ時は同順位とし、リーグ戦終了時に直接対決結果で決定（H&A実施完了時のみ）

記録にも記憶にも残るし、残さないといけ
ないと思うけど2度と経験したくない、
そんな今シーズンはあと2試合残って
いますが、今季の『岐大通』はここまでです。
ご愛読ありがとうございました。
来季は、歌って叫んで喜べるシーズンが
戻ってきますように……（祈）。

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休：月曜日

today's guest : ヴァンラーレ八戸

2019 J3 14勝 6分14敗 勝ち点48:10位

直近の対決と結果

2020/09/13
J3 - 15節@プラスタ

八戸 0-3 岐阜

橋本和、町田ブライト、
高崎寛之 scored.

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜	ヴァンラーレ八戸
2020/12/05 J3 - 31節@長良川 岐阜 0-2 鳥取	2020/12/06 J3 - 31節@プラスタ 八戸 1-1 相模原
2020/11/28 J3 - 30節@ピカスタ 讃岐 0-1 岐阜	2020/11/28 J3 - 30節@プラスタ 八戸 1-1 YS横浜
2020/11/21 J3 - 29節@長良川 岐阜 2-1 藤枝	2020/11/22 J3 - 29節@チユスタ 鳥取 1-2 八戸

ヴァンラーレ八戸:

八戸工業SCが東北リーグ2部北地区に参戦していた2006(平成18)年に、青森県リーグ1部に参戦の南郷FCを統合し「ヴァンラーレ八戸」となる。2011(平成23)年は東日本大震災の影響でリーグへの参加辞退チームが続出、東北2部は南北統合で行われ八戸は全勝優勝するも1部昇格出来ず。翌年、昇格プレーオフでコバルトレ女川(東北2部南)を破り1部昇格。2014(平成26)年、J3発足に伴うリーグ再編成の際にJFL加盟。2018(平成30)年、JFLで3位となりJ3へ。2017(平成29)年の天皇杯ではJ1甲府を、2019(令和元)年はJ1松本を破って3回戦進出。(吉田鑄造)

●シーズン最後の一月となる12月に入った2020年J3リーグ。12/5(土)第31節・ホーム鳥取戦、FC岐阜は試合の入り方が悪く、前半早々にカウンターで先制点を許してしまう。その後PKを獲得するが止められてしまい、再びカウンターで前半に2失点。後半には圧力を増して鳥取のゴール前まで迫り、またシュートを撃つ岐阜の攻撃陣だったが、フィニッシュの精度やアイデアを欠き、そしてゴール前をしっかりと固める鳥取の守備網を破ることができない。結局試合は0-2、シーズン最終盤の大事な大事な試合で、痛すぎる敗戦を喫してしまった。この試合で負けた岐阜は、順位は変わらず、また勝ち点も52のまま。また今節の他会場では、相模原が引き分けて長野が勝利したので、2位・長野との勝ち点差が3、相模原との勝ち点差は2と開いてしまった。そして両チームの今後の対戦は、長野がG大阪U23(A) - 岐阜(H) - 岩手(H)、相模原が沼津(H) - 秋田(H) - 今治(A)。シーズンは残り3試合。岐阜は長野との直接対決を残しているが、得失点差が9と大きいのが難点だ。そして相模原とは対戦を終えているので、相模原の対戦相手が勝利してくれるのを祈るしかない。J2昇格という目標達成には、今の状況はかなり厳しくなっているが、しかしまだ可能性は残されている。この目標達成のためには、まずは我々が残り3試合を全勝することが求められる。そしてシーズン最終節を歓喜で終わるために、まずは今節この試合で絶対勝利しなければならない。

さて、今シーズン最後のホーム戦となる、今節の対戦相手はヴァンラーレ八戸だ。昨季はJ3初参入で10位。今季は中口雅史監督を招へいして昨季以上の順位を目指したが、戦術がチームにフィットせず低迷し、現在は15位。10月早々には今季で中口監督との契約満了が、11月末には退団選手が発表され、既に来季への体制作りがはじまっているチームだが、しかし目の前の試合で勝利を目指さないチームなどいない。実際、前節は2位(当時)相模原を相手に互角以上に渡り合い、1-1と引き分けている。我々は次節の試合・長野戦が非常に大事な試合ではあるが、今節を中2日の下位相手と侮っていると足下をすくわれる。そして我々は今季、そういう痛い経験を何度もしたはずだ。しかも、今節はホーム最終戦。全力で戦って勝利して、J2昇格に望みをつなげなければならない。

八戸の要注意選手には、現在9ゴールの#9上形洋介を挙げる。そして現在7得点の#17安藤翼は前節で貴重な同点ゴールを挙げており、こちらも要注意だ。また八戸の選手は総じてフィジカルが強く、その点にも注意が必要だ。八戸との初対戦となった前回9/13(日)第15節アウェイ戦は、前半に#2橋本和のトリッキーなゴールで先制すると、#15町田ブライトのJ初ゴールで追加点。後半には相手選手の退場もあり、#9高崎寛之のゴールで試合を決めて3-0での勝利。最終順位には得失点差も大きな影響を及ぼすことが予想されるだけに、今節は1点でも多くゴールを決めて勝利してもらいたい。

あっという間に、今シーズンも終わりを迎える。新型コロナ「第3波」が到来している状況下で、来季の戦うステージがどちらになるにせよ、今季よりも厳しい状況になるのは間違いないだろう。しかし、我々は「サポーター(支える人)」を自負しているはずだ。まずは今季の最後まで、全力でチームとクラブを、自分のできる範囲でしっかりと支えよう。そして、ワクチンが開発されて新型コロナの恐怖が消えるまで、十分に感染防止対策・観戦ルールを遵守した上で、来季も再び、このホーム・岐阜メモリアルセンター長良川競技場に集い、僕らのクラブ・FC岐阜を支えよう。(ささたく)

投稿募集!! gidaidohri@gmail.com

【第31節】岐阜 0-2 鳥取

●前半 22 分に PK を獲得した #10 川西翔太が、慎重に慎重を重ねて PK スポットにボールを置くのを見た時、僕はなんだか嫌な予感がした。そして彼が足踏みしながらボールにゆっくり向かった時点で、それは不安に変わった。「それは PK 失敗する時によくみる…！」そして残念ながら、それは現実になってしまった。ボールは GK が一番止めやすいコース、そりゃ弾かれますよ… (溜息)。このプレーに象徴されるように、今日の岐阜の選手たちは、なんだかチグハグだったというか、フワフワしてたというか、「試合の入り方が悪い」というか。相手が 2 位との勝ち点 6 差で、少し “死に体” (だけどまだ終わっていない) の鳥取だったから？この試合で勝利すれば、翌日に試合を控えている 2 チームにプレッシャーをかけられるからと、勝利を意識したから？なんというか、チームとしての意思徹底が見られず、前半は中途半端で強度の足りないプレーが散見された。

先制点を奪われた時も、左サイドを突破されてピンチなのは分かるけど、自陣に選手が何人も戻ってきてるのに、相手をマークせず侵入を許していれば、そりゃ失点するよね…っていう風に僕には見えた。PK 失敗後の 2 失点目は、中盤でボールを奪取…って瞬間に後ろから上がった相手選手にボールを奪われてカウンター。同点に追いつきたい気持ちだけが強すぎて、最終ラインが不用意に上がっていたのを狙われてしまった。

ハーフタイムに激が飛んだのだろう、後半になると岐阜の攻撃も圧力を増した。だけど、岐阜は後半序盤の好機に得点できず、徐々に時間が経過してゆくと、鳥取は勝利のために自ゴール前・中央をがっちり固める戦術に。岐阜の選手たちは何度もシュートを撃つが、そのたびに身体を投げ出してゴールを死守する鳥取の選手たちに弾かれる。#35 レレウのミドルは入ったかと思ったけれど、これもポストに弾かれ…正直、この試合はサッカーの神様も味方してくれなかったなあ… (溜息)。クロスを入れても、あるいは縦ポンでも、中央に固まっている鳥取の守備を崩せないのならば、次の手はドリブル突破で守備網を崩し、そしてファールを貰ってからのセットプレーじゃないかと僕は思うのだけれど、なぜか頑なにクロスに拘り続ける岐阜の選手たち。そして、“ボールを待つ” プレーが多い岐阜の選手は、鳥取の選手の素早い寄せに怯んで、後ろにボールを回してしまうシーンも…。痛すぎる 0-2 での敗戦。そして鳥取の連敗は、前々節で退場処分になった #7 可見壯隆を欠いたからなのだな、というのも実感した試合だった。豊富な運動量でボールを奪ってゲームを組み立てるキャプテンが復帰して、負けたらほぼ J2 昇格への希望が絶たれる試合で、試合開始から力強く戦い、そして最後まで必死に走り、守り切って勝利し、奇跡の逆転劇にわずかな望みを繋いだチーム。残念ながら、この試合は戦術的にもメンタル的にも岐阜の『完敗』としか形容しようがない。このメンタルを、岐阜にも注入したい…。

本当に苦しい状況になったけれど、だけど、まだサッカーの神様は、最後まで J2 昇格争いを面白くしたいようで… (苦笑)。八戸が相模原に引き分けてくれたおかげで、まだ首の皮 1 枚 (?) つながってる。今日はホーム最終戦、まずは強い気持ちでしっかりと勝利し、最終節まで希望を捨てずにやりきろう！

(ささたく)

●今季の願いは『シーズンが無事に完了すること』でした。このまま行けそうな気もします。でも、予断を許さない状況ではありませんね。さて、前節の鳥取戦。ふだん通りの試合でした。つまり、相手が不出来なら勝ち、相手が上出来なら負ける。そういう試合に見えました。たしかに、10 番の PK 失敗は痛かった。アレはどうしたのかな？主審に指摘されたワケでもないのに、わざわざボールをセットし直す。リズムが良くないなあ、と感じたままになってしまった。残念です。ただ、それ以外にもキックオフからチグハグな感じ。『策士、策に溺れる』ではないですが、コイントスに勝って陣地を取った時点で満足しちゃいましたかね？逆光を避けるための作戦だったと思ったんですが。しかし、鳥取の中央も固かった。前節があんな負け方だっただけに奮起したのかもかもしれません。

ウチとしては、後半開始早々の攻勢のなかで追撃出来なかったのが響きました。あとは、前述の中央の固さ、ゴール前の人海戦術に屈しましたね。あんなに人がいたら、そりゃ佑太のシュートも入りません。レレウのポスト直撃は、もう試合の流れ的に決まらない状況でした。仕方ない。いや、鳥取もバー直あったからお互い様か。はっきり申し上げて、完敗、でした。

この敗戦の結果、昇格は『限りなく赤に近い黄色信号』となりました。やはり、失敗した指揮官のヘッドコーチでは『立て直し』は難しいと

いうことでしょう。逆に、よくココまで立て直したというべきかも知れません。いずれにせよ、まだ 3 試合あります。とにかく、全部勝ちましょう。それだけです。

(ぐん)

●「タフ」な試合になるだろうとは思ってたけど、そうはならず、敗れて書くけど「クズ」な試合になった。鳥取がわかりやすく示してくれたこと。「岐阜は主導権を握らないと何も出来ない」「奪われた主導権を奪い返す戦術的オプションがない」。だから、とにかく早く寄せる。「やりにくいな」と思わせる間にゴールを奪ってしまって、あとはコントロール。つまり、試合展開をリニアにする。

もちろん、川西の PK 失敗もあった。レレウのミドルがポストに嫌われたこともあった。それでもゲームは鳥取のモノだった。もし岐阜が勝ったとしても、それは実力で上回ったからでは、断じてない。岐阜で気になったのは、とにかく左サイド。ワタルのクロス精度も良くなかったし、それよりなによりトガシー。「俺はサイドなんかやりたくないんだ」ってオーラがスタンドまで届いてるような気がした。実際、彼はセンターでスピード勝負をさせた方が活きると思う。で、そのダメダメな左サイドに後半開始から手を入れると思ってたのに。まあ、あのままで同点逆転まで行けると指揮官が判断したのなら、観戦者がどうこう言うことではないんだけどね。

でも、そりゃ岐阜が J3 に居続けてもぼくは応援しますよ (たぶん)。でも、だからといって「岐阜が J3 に居続けてもいい」というわけではない。そこはキチンと認識して準備しないとね。来年の。

(吉田 Casting)

【ホーム最終戦恒例】 今季のベストゲーム・ベストゴール・MVP は？

◆ベストゲーム

第 5 節 ホーム 熊本戦

やはりベストゲームはホーム戦から選びたい主義なのです。ですので、7/19 (日) 第 5 節・熊本戦を挙げます。昨年途中までの 2 年半、岐阜の指揮を執っていた大木武監督が率いる熊本は、当時 4 連勝で無敗。“大木サッカー” で攻めたてる熊本に対して、粘り強く守り続ける岐阜。徐々に攻め疲れが見えだした熊本に対して攻勢をしかけた岐阜。最後の最後に #28 永島悠史が劇的な決勝ゴールを挙げての勝利。“大木サッカーの攻略法” を完全に実践し、また第 5 節のように挙げたホーム初勝利 (苦笑) も加味して、現時点でのベストゲームに推しますが……今季残り 3 試合全部が、これを上回る今季のベストゲーム候補のはずです！！ (ささたく)

第 19 節 アウェー 熊本戦

最後までどちらに転ぶかわからない、まさに『手に汗握る試合』。それを勝ち切った喜び。感動と興奮に一票。ただ、今節以降の全試合がコレを超えることを願って止まない。(ぐん)

第 20 節 アウェー 今治戦

0-2 の劣勢から 3-2 の大逆転。決勝点をヘッドでアシストしたのが、スルスルっと相手ペナエリアに入ってきた甲斐だったというのも高評価。この試合は観に行くつもりで年休まで取っていたのに、まだアウェー客の受け入れ前で観戦できず……ぐぬぬぬぬ。(吉田 Casting)

◆ベストゴール

No.10 川西翔太 2 節 (7/5) アウェー鳥取戦

2 点先制しながら追いつかれた 63 分、左サイドから入ってきたボールを中央から左に流れて PA 角でトラップ、ターンして詰めてきた相手 DF をかわして中央に侵入。さらにシュートフェイントでタイミングをずらし、コースを狙い澄まして逆サイドのゴールネットを揺らす。個人技と想像力の生み出した、まさにゴラッソでした。(ささたく)

No.2 橋本和 15節 (9/13) アウェー八戸戦

C Kを相手G Kが弾いたところを竹田が叩きつけたボールが橋本のところへ。すると意表を突くヒール・ループ。あんなシュート、撃てるんだねえ。感心しました。(吉田鑄造)

No.16 富樫佑太 29節 (11/21) ホーム藤枝戦

同じ藤枝戦の先制点、第19節アウェイ熊本戦の決勝点とで悩んだ。悩んだが、一番美しいゴールはコレと判断。佑太のベストポジションなのか？を如実に示すゴールだった。(ぐん、)

◆MVP

No.4 甲斐健太郎

正直、アノ鳥取戦の後でコレを選ぶのはキツかった(苦笑)。なんなら、『該当者なし』も考えたが、残り試合への期待と祈願を込めて選出。なお、彼については、今後のためにも全力での引き留め、契約更新をお願いします！(ぐん、)

No.10 川西翔太

やはり、僕としては川西翔太を挙げざるを得ないのかと思います。良くも悪くも、今季のFC岐阜の“王様”だったと思います。相手チームもそのことは熟知していて、常に2人3人のマークがついていたような…。彼が自由にプレーできた、あるいは川西にマークがついた分フリーになった選手が活躍できた試合は勝ち、そうでなかった試合は負けたような感じもしています。現時点で9ゴール4アシスト。今季は大分からレンタル2年目、来季は……どうなのかな……。 (ささたく)

該当者なし

今季は「いない」としか答が出せない。どうしても！というなら「ゼムノビッチ監督の解任(あの時点では休養か)を社長に決断させたひと」になるのだけど、プレイヤーじゃないからね……。来季は「誰にしようか、候補者が多くて困っちゃうぜ」というシーズンになってほしいです。(吉田鑄造)

今季の、そして 来季のFC岐阜へ。

●まずは、このコロナ禍の中で、(今のところ)最後まで試合が開催されたことについて、御尽力された関係者の皆さまに対して、心からの感謝と敬意を申し上げます。選手に陽性反応が出て開催中止となる試合もあり、また岐阜では観客に陽性反応が確認されましたが、スタジアムがクラスター化したことはなく、今のところ安堵しています。コロナ「第3波」が襲来する中、若干？の不安がありますが、最後まで全試合が開催されることを切に願います。

そして、FC岐阜は2012年から昨季まで、ほぼずっとJ2残留争いを繰り広げていました(苦笑)が、今季はJ3に降格して13年ぶりに“昇格”をかけて挑む、新たなシーズンでもありました。現時点では4位、J2昇格に崖っぷちの状況ではありますが、まだ首の皮一枚つながっています。今シーズン最終節の終了後には、歓喜していたいものです。

さて、現時点(第31節終了)でのFC岐阜の戦績は、15勝7分9敗・48得点37失点で勝ち点52。1試合当たりの平均得点が1.5でリーグ4位なのは良いのですが、平均失点1.2はリーグ8位。そして平均勝ち点は1.7。今季、それまで無敗でJ3優勝を決めた秋田が異常に強かったのは否定しませんが、それでもこれまで“優勝ライン”の目安であった勝ち点65には届かない。そしてJ2昇格圏の2位も際どい状況……今季同じくJ3に降格した鹿児島が8位に苦しんでいるのを見ても、やはり過去『1年でJ2復帰』を達成できたのは大分のみで、困難な目標なのだのと痛感せざるを得ません。

苦戦している原因は、もちろんコロナ禍の影響で過密日程だったことや、十分な練習ができなかったことも挙げられるでしょうが、それは他のチームも似たような状況のはず。初めて異なるカテゴリーでのリーグ戦で戦い方が分からなかったということもあるでしょうが、やはり『指揮官選任・戦術選任』の失敗が、今もなお影響しているのでは……というのが、僕の率直な感想です。

逆の例として、優勝した秋田を考えてみたいと思います。Jリーグが開示した資料では、昨年の秋田の予算規模は4億6千万でリーグ7位、対する岐阜は10億7千万。降格でJリーグ分配金が3千万減り、さらにスポンサー収入等が減ったとしても、秋田よりは岐阜の方が予算規模は大きいでしょう。『今では10億かあ……増えたなあ』という感慨はさておき(笑)、それでも圧倒的に(少なくともJ3で)強いチームを作り上げた秋田。上手い選手はそれほど多くはないけれど、しっかりとフィジカルを鍛え上げ、90分間走り続けて当たり負けせず、そして考え続けることのできるチーム作り。下手にパスをミスしてボールを失うよりは、シンプルに素早く激しくボールを追い、奪ったら素早くカウンターを仕掛ける。ある意味では“秋田版ゲーゲンプレス”と言っても良いような戦術と、その戦術理解。そして、左右からのロングスローを含め、非常に精度の高いセットプレーでの得点力。『お金がなくても、こういった強いサッカーはできます』と秋田が示して見せたことは、今季のJリーグに大きな衝撃だったと思いますし、今後の各チームにも影響を及ぼすでしょう。実際、ロングスローを多用するチームが出てきたように思います。これを完全に真似すれば良いとまでは言いません(笑)が、少なくとも参考にはすべきです。昨年の『岐大通』でも主張しましたが、まずはフィジカル強化。今季はフィジカル関連コーチ2名体制にして強化を狙ったのは評価していますが、コロナ禍の影響で思うような強化ができなかったのか、それとも1年では鍛え足りないのか(苦笑)。来季も引き続き、しっかりとフィジカルを鍛え上げてください。

経営の方は、今季もフロント・スタッフの努力が素晴らしかったです。J3では異常ともいえる(苦笑)、ホームスタジアムの“地域のお祭り”感が継続されたのには感謝と敬意しかありません。ただ、コロナ禍の影響で、今後どうなるのか……少し心配ではあります。さて、来季のFC岐阜は、どちらのステージで戦うことになるのでしょうか……。J2に復帰したとしても、来季は4チームが降格する地獄のシーズンが待っています。一方の(想定したくないけれど)J3ですと、J2から降格するチームがないため、少しは昇格争いが楽(?)になるでしょうが、Jリーグ分配金の減額やスポンサー収入の大幅減額で、クラブ経営は大変なことになるかもしれません。どちらが良いのか……まあ、J2・J3どちらのステージでも、僕はなんだかんだと文句を言いながら「このクラブとチームとJリーグを楽しむ」ってことに関しては、来季になっても変わらないんでしょう(苦笑)。サッカーが地域にある日常、スポーツで生活が豊かになる社会、いわゆる『Jリーグ百年構想』を、感染防止に注意しつつ、僕は来年も一生懸命に謳歌したいと思います。

ちなみに今季の『岐大通』はコロナ禍の影響で、スタジアム内での配布という異例の形式を採らせていただきました。クラブのご配慮にも、心から感謝申し上げます。来年は……どうなるのかな？(ささたく)

●機会があったら聞いてみたいことがある。それは、今季の監督をゼムノビッチさんに決めた経緯。何人もの選択肢の中から決めたのか。だとしたら、決め手は何だったのか。あるいは、最初からゼムノビッチさんありき(サッカー情報に精通した仲間、それも複数人から、木村さんを強化部に据えた時点で読めた人事という話を聞いた)だったのか。

そして、残念ながら任期途中での退任となり、またしてもクラブとしての積み重ねが出来なかった。結局、ウチは今に至っても同じことの繰り返し。サッカーに関しての積み上げが何もない。本分以外の事業については言うことがない。スタジアムに来るだけで、コレだけの楽しみ方があるクラブは、(控えめに言っても)Jリーグの中でも屈指だろう。ただ、後はメイン・ディッシュだけなんだ、と。自分としては、どのカテゴリーだろうが、どんなサッカーだろうが応援する。ただ、選手が辛そうにやってる試合や、腰の引けた試合は見たくない。今季の秋田の躍進を挙げるまでもなく、指揮官と強化関連部門の重要性は明らかだ。もちろん、仲田さんの継続もあるだろう。ウィズ・コロナの現状で大きな変化は難しいこともわかる。ただ、今のままではダメでしょう？ということ、微力ながら声を上げていきたい。(ぐん、)

●Jリーグの公式サイトで力技で調べただけで、今季のFC岐阜は節ごとの順位で1回もJ2昇格圏内に入ったことがない。この戦績をもって「昇格争いに参加している」と表明するのは少々おこがましいようにも思える。果たして、「J2優勝」という大きな目標を掲げたクラブはこの不都合な事実に向き合うのか。

今季から指揮を取ったゼムノビッチ氏は20年前近くにJ1清水を指揮していたが、最近では関東1部・VONDS市原で超地域リーグ級の戦力を抱えながら地域Cに1回しか行けなかったという部分が不安だった。戦力でしか試合が出来ない、チーム戦力は個人戦力の合計にしかない。だから、相手は対策を1つだけ準備すればいい。あるいは、試合中に岐阜対策を敷けばいい。(本人は絶対に認めないだろうが)1つのやり方に固執した大木武氏と、1つのやり方しか持っていないゼムノビッチ氏。自分のサイトとかで何度か引用しているけど、ドーナツの穴が存在なのか空白なのかは形而上学的問題で、ドーナツの味は変わらない(村上春樹『羊をめぐる冒険』)。穴が空白でも存在でも、不味いドーナツは不味いってことだ。

やっぱり衝撃的に刻み込まれたのが、ホーム岩手戦。試合開始から怯えまくってた岩手守備隊が、後半からはラインを思いっきり上げて岐阜のパス出しを封じると、今度は前線3枚替えを敢行してフォアプレス、これで試合の主導権を奪い返してしまった。監督の『器』の差を見せつけられてしまった。そして、ホーム長野戦での完敗をもって監督交代。いまから思えば、よくあの時点で交代に踏み切ったと思う。これはクラブ・フロントはグッジョブだ。

内部昇格で仲田建二氏が監督に。交代初期はいわゆる「監督交代ブースト」が効いたけれど、観戦仲間が「ゼムノビッチ時代と何がどう変わったのかよくわからない」とボヤク通りに収束していった。そりゃそうだ。前任者のやり方からドラスティックな変更はしていないし、コロナ禍において連戦が続くなかでドラスティックな変更など出来るはずもない。結局は、決まり事のない中で「戦力だけがサッカーをして、戦術は見当たらない」試合が続いていった。

そんな状態だから、まだJ2昇格の可能性が残っているだけで「奇跡」というか「信じられない」というか「よくわからない」というか。ただ、たとえハイパー・ジャックポットを引いてJ2昇格を果たせたとしても、残念な結果で来年もJ3になったとしても、今季の強化体制とその結果はキチンと総括しなければならない。継続性を求めるのなら、何年かはJ3でもいいけれど継続を成長として昇格し、上位リーグに定着し、さらに上位リーグを目指せるチームにしなければならない。継続性を求めないのなら、1年でちゃんと昇格出来るチームに仕上げなければならない。いつまで、何も残らない焼畑農業のようなチーム作りを見なければならないのだろう。

(吉田鑄造)

編集人から一言。

●まずは、読者の皆様には今季もご愛読いただき、ありがとうございました。

とにかく、コロナ禍で大変な1年でした。長良川の試合の、雷雨による試合開始直前の延期決定もありました(少なくともJ参加後では初めて、かな?)。この『岐大通』も、今季・第1号は今治戦がリモート・マッチ開催となったため、初めて現地配布なし=PDF版のみの公開に。現地配布再開後も感染拡大防止のためスタジアム内での配布となりました。クラブの配慮に感謝すると同時に、これも長く続けてきたがゆえにクラブから認められているということかな?と、編集者として密かに嬉しくも思います。

●英国ではワクチンが認可されたとか、ロシアでは大規模な接種が始まったとか、新型コロナウイルス感染症制圧の動きが加速しています。このままで行くなら、日本でもワクチン接種が近いうちに始まるのかもしれませんが。そして、コントロール出来るようになったら、東京五輪の1年延期開催になるのでしょうか。

そのせいか、来季のJリーグは2月中旬くらいに開幕だそうでして、そうなると新チーム指導は1月下旬でも遅いくらい。今季が終わって1ヶ月、年末年始を除けば3週間かそこらしかありません。でも、条件は他のクラブ、チームも同じことです。

●来季はどのカテゴリーで戦うのかまだ決まっていますが、いまのところ『岐大通』は続けて発行の予定です。来季もよろしくお願いします。そして、寒くなって各種ウィルスの活動も活発になっていますので、くれぐれもお自愛ください。

(編集人・吉田鑄造)